岩盤ボーリング柱状図

調　　査　　名	砂防指定地内河川 大広川 砂防メンテナンス事業に伴う業務委託
事　業　・　工　事　名	
調査目的及び調査対象	砂防　構造物基礎

ボーリング名	B3-1	調査位置	広島県呉市広大広			北緯	34° 15’ 12.1801″
発注機関	広島県西部建設事務所呉支所			調査期間	令和4年11月28日～ 令和4年12月 2日	東経	132° 36’ 58.6218″
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	TP 103.92m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	0°北 90°東 180°南 270°西	地盤勾配	0° 鉛直 水平 0° 90°	使用機種	試錐機	東邦DO-C
総削孔長	8.00m								エンジン	ヤンマーNF110M	ポンプ	東邦BC-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	記事	孔内水位／測定月日	ルジオン試験 ルジオン値	ルジオン試験 P－Q図	原位置試験	室内試験	削孔状況 削孔月日	削孔速度 (cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削孔水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
1													堤体コンクリート 全体的に径10～30cm程度の玉石を主体とし、玉石間はコンクリートで充填されている GL-1.05m～1.10m、空隙 GL-1.50m～1.55m、空隙 GL-1.65m～1.70m、空隙 GL-2.00m～2.05m、空隙 GL-3.80m～4.00m、空隙 GL-4.35m～4.50m、空隙 GL-5.10m～5.15m、空隙 GL-5.50m～5.80m、空隙						3.60 密度圧縮 3.70	11/21							
2																											
3																											
4																											
5																											
6	97.92	6.00		粗石コンクリート	淡青灰														11/22								
7	96.92	7.00	RV	流紋岩	青灰	w2	h2	C	Ⅳ	b	CL	50 60 100	岩片～短柱状コアで採取される 割れ目沿いに風化が進み、ハンマーの打撃により容易に割れる 一部は砕ける 土軟硬区分：軟岩Ⅰ							66／ケーシング	ダブルコアチューブ／DB						
	96.52	7.40	RV	流紋岩	青褐	w3	h3	D	Ⅴ	c	D	10 10 95	礫状～岩片状コアで採取される 岩芯まで風化する。手で割れることができるが、一部やや硬質な礫状として残る 土軟硬区分：軟岩Ⅰ 岩級区分：DH							66／泥水	ダブルコアチューブ／DB						
8	95.92	8.00	RV	流紋岩	青灰	w2	h2	C	Ⅳ	c	CL		岩片状コアで採取される 潜在亀裂が多く発達している 割れ目沿いに風化が進み、ハンマーの打撃により容易に砕ける コア肌が粗い 土軟硬区分：軟岩Ⅰ						11/24							
9																											
10																											
11																											
12																											
13																											